

口腔顔面神経機能学会会報

■2021年2月1日発行

■〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野内

口腔顔面神経機能学会事務局 TEL: 099-275-6242

FAX: 099-275-6248

E-mail: jsfnf2@gmail.com

ホームページ: <http://www.mcci.or.jp/www/shinkei/index.html>

口腔顔面神経機能学会 理事長挨拶

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野 中村典史



皆様におかれましては、日頃より口腔顔面神経機能学会の活動にご協力いただき御礼申し上げます。また、皆様にはお変わりなくご健勝にて、ご活躍のことと拝察申し上げます。

さて、昨年来、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックにより、様々な社会活動が制限され、皆様方の医療施設におかれましても、感染症対策にご苦勞なさっているものと思われます。本学会におきましても、昨年2月に予定していました郡山での第24回口腔顔面神経機能学会総会・学術集会、ならびに口唇舌感覚異常判定認定医試験が急遽中止となり、ご準備をされてきた奥羽大学の高田 訓先生には大変なご苦勞をおかけしました。また、本学会の活動の核として折角軌道に乗っていました精密触覚機能検査研修会も感染対策として大人数での密な集合を避けるために自粛となり、この1年間は本学会の活動がほぼ制限されることになったのはとても残念でありました。さらに、本年に入りましても新型コロナウイルス感染症拡大の勢いは衰えておりません。そのような中で、本学会の活動を継続するために、高田 訓先生がご担当で、令和3年3月に、口腔顔面神経機能学会総会・学術集会が計画されております。Web開催となりますが、本学会

の活動が再開されますことを心から祈念しています。

一方、本年度末をもって、本学会の発足から今日まで学会の発展に大変なご尽力をいただきました前理事長である古郷幹彦先生、高木律男先生を始め、金子明寛先生、北村龍二先生、鄭漢忠先生など多くの先生がご退任されることになりました。本来、この神経機能学会会誌は、前年度の学会の事後抄録集として発刊されてきましたが、今回は学会が中止されたことにより理事一同で協議の結果、ご退任いただきます先生方に学会員に対する特別寄稿をお願いいたしました。ご寄稿いただきました先生方には大変お忙しい中に、誠に有難うございました。先生方の抜歯後の口唇感覚異常の完全回復に対する並々ならぬ思い入れと、今後の本学会に課せられた期待の大きさを感じさせる内容に、コロナ禍に負けてばかりではいけないという気持ちにさせられます。口腔顔面領域の感覚異常の診断、治療の研鑽を積んでこられた本学会の会員の皆様とともに、Web等を活用して、各地域の歯科医師に対して神経損傷に関する啓蒙、ならびに精密触覚機能検査の普及活動を推進できればと思います。

末尾となりましたが、皆様のますますのご健勝をお祈りいたしますとともに、口唇・舌感覚異常判定認定医ならびに認定施設の更新時期を迎えられる関係者の皆様には、滞りなく更新いただけますようお願い申し上げます。

目 次

理事長挨拶	1
認定施設及び認定医	2
第11回口唇・舌感覚異常判定認定医試験について	3
口唇・舌感覚異常判定認定医資格更新のお知らせ	3
精密触覚機能検査研修協議会主催の精密触覚機能検査研修会について	3
神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム（WEB開催）の開催のお知らせ	3
口腔顔面神経機能学会主催アドバンスセミナーの開催について	3
口唇・舌感覚異常判定認定医制度規程	4
口唇・舌感覚異常判定認定医制度施行細則	5
特別寄稿	
「口腔顔面神経機能学会の思い出」 金子明寛先生	6
「下顎埋伏智歯抜歯後の下唇知覚異常を考える」 北村龍二先生	6
「めざそう口唇感覚の完全回復」 古郷幹彦先生	7
「退官にあたって：お世話になりました」 高木律男先生	7
「オンラインに思うこと」 鄭 漢忠先生	8
第24回口腔顔面神経機能学会の御案内	9
令和元年度収支決算報告書	10
口腔顔面神経機能学会会則	10
入会申込と年会費のお知らせ	11
理事名簿	12
編集後記	12

認定施設及び認定医

認定施設一覧

登録番号	施設名	更新年
1	大阪大学大学院歯学研究科 第一口腔外科学教室	2025
3	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学	2025
4	兵庫医科大学 歯科口腔外科学講座	2022
5	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2025
6	東京歯科大学水道橋病院 口腔外科	2025
7	大阪歯科大学 口腔外科学第二講座	2025
8	東海大学医学部外科学系 口腔外科	2025
11	松本歯科大学 歯科麻酔学講座	2025
12	九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面外科学分野	2025
13	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2025
14	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2025
16	公立学校共済組合 九州中央病院 歯科口腔外科	2025
17	公立学校共済組合 近畿中央病院 口腔外科	2025
18	日本歯科大学付属病院 歯科麻酔・全身管理科	2025
19	NHO 高崎総合医療センター 歯科口腔外科	2021
21	大阪警察病院 歯科口腔外科	2023
22	浜瀬歯科医院	2025
25	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学	2022
26	会津中央病院歯科口腔医療センター	2024
27	医療法人社団 ムラヤマ歯科	2024
28	社会医療法人大道会 森之宮病院	2025
29	医療法人新正会 ひまわり歯科クリニック	2025

認定医一覧

認定番号	登録名称	機関名	更新年
CP-001	古郷 幹彦	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2025
CP-008	金子 明寛	東海大学医学部外科学系口腔外科	2025
CP-009	川辺 良一	社会医療法人財団互恵会 大船中央病院 口腔外科	2025
CP-011	澁谷 徹	松本歯科大学 歯科麻酔学講座	2025
CP-013	高木 律男	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2025
CP-014	中村 典史	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2025
CP-015	古澤 清文	松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座	2025
CP-016	堀之内康文	九州中央病院 歯科口腔外科	2025
CP-019	飯田 征二	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学	2025
CP-020	田中 晋	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2025
CP-021	小林 明子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野	2025
CP-022	望月 美江	ミエ歯科医院	2025
CP-024	高田 訓	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2025
CP-027	高崎 義人	社会医療法人 大道会 森之宮病院 歯科診療部	2025
CP-028	中嶋 正博	大阪歯科大学 口腔外科学第2講座	2025
CP-030	谷山 貴一	松本歯科大学 歯科麻酔学講座	2025
CP-032	大山 順子	九州大学病院 口腔顎顔面外科	2025
CP-033	佐々木匡理	九州中央病院 歯科口腔外科	2025
CP-034	児玉 泰光	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2025
CP-036	野添 悦郎	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2025
CP-039	石井庄一郎	公立学校共済組合 近畿中央病院 口腔外科	2021
CP-041	中村 仁也	日本歯科大学附属病院 歯科麻酔・全身管理科	2025
CP-042	飯田 明彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2025
CP-044	沢井奈津子	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2021
CP-045	石濱 孝二	大阪警察病院 歯科口腔外科	2021
CP-046	宮 成典	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2021
CP-047	山崎 裕子	自治医科大学 歯科口腔外科	2021
CP-048	浜瀬 真紀	浜瀬歯科医院	2021
CP-049	澤田 真人	本山デンタルクリニック	2021

CP-051	稲川 元明	国立病院機構高崎医療センター 歯科口腔外科	2021
CP-052	松永 和秀	近畿大学医学部奈良病院 歯科口腔外科	2022
CP-053	熊谷 順也	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野	2022
CP-054	磯村恵美子	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2022
CP-055	菅野 勝也	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2022
CP-057	原田 丈司	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2023
CP-058	正元 洋介	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2023
CP-059	中村 康典	国立病院機構 鹿児島医療センター 歯科口腔外科	2023
CP-062	川原 一郎	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2023
CP-064	石畑 清秀	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2024
CP-065	濱田 智弘	会津中央病院 歯科口腔医療センター	2024
CP-066	高橋 進也	サニーデンタルクリニック	2024
CP-067	辻 忠孝	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2024
CP-070	小橋 寛薫	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2024
CP-077	山田 智明	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学	2025
CP-079	前田 慶子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野	2021
CP-080	関 壮樹	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2021
CP-081	上松 晃也	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2021
CP-082	永井 孝宏	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2021
CP-083	小嶋 忠之	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2022
CP-084	菊地 隆太	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2022
CP-085	原 崇之	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2022
CP-086	和気 創	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野	2022
CP-087	久米 健一	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2022
CP-088	松本 幸三	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2022
CP-089	香月 佑子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野	2022
CP-090	栗原 絹枝	東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科	2023
CP-091	大山健太郎	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2023
CP-092	山田 早織	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2023
CP-093	大貫 尚志	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2023
CP-094	臼田 真浩	奥羽大学歯学部 口腔外科学講座	2023
CP-095	岐部 俊郎	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野	2023
CP-096	樋口 将隆	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2023
CP-097	高畑 惣介	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2023
CP-098	松下 豊	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室	2023
CP-099	村山 雅人	医療法人社団 ムラヤマ歯科	2023
CP-100	高岡 一樹	兵庫医科大学 歯科口腔外科学講座	2023
CP-101	豊留宗一郎	近畿大学医学部奈良病院 歯科口腔外科	2024
CP-102	大河内孝子	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2024
CP-103	勝見 祐二	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2024
CP-104	黒川 亮	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2024
CP-105	石井広太郎	九州大学病院 顔面口腔外科	2025
CP-106	古閑 崇	医療法人社団貴望会 古閑歯科医院	2025
CP-107	品川 憲穂	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2025
CP-108	湖上 貴央	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2025
CP-109	石田 喬之	鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター	2025
CP-110	矢内 雄太	九州大学病院 顔面口腔外科	2025
CP-111	今利 一寿	九州大学病院 顔面口腔外科	2025
CP-112	上野山敦士	新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野	2025
CP-113	西山 明宏	東京歯科大学水道橋病院 口腔外科	2025
CP-114	片倉 朗	東京歯科大学水道橋病院 口腔外科	2025

認定医施設、認定医については2020年3月31日時点で更新手続き確認されたものを掲載しています。更新年の3月31日が認定期間終了日となり、更新申請書の提出はその前年末までに完了する必要があります。

第11回口唇・舌感覚異常判定認定医試験について

- 第11回口唇・舌感覚異常判定認定医試験については、新型コロナの状況を考慮して、しかるべき時期に実施いたします。
- 不明な点についてはメールにて事務局にお問い合わせください。
e-mail : jsfnf2@gmail.com

口唇・舌感覚異常判定認定医資格更新について

- 昨年口唇・舌感覚異常判定認定医の更新については、1年間繰り延べをすることといたしました。そのためすべての認定医の更新年を1年繰り延べといたします。
- 更新資格として、学会参加10単位、学会発表者10単位、共同演者5単位、神経機能に関するセミナー等（10ないし5単位）合計30単位以上が必要となっております。昨年度の規則の変更により「単位習得見込み」での更新申請ができるようになり、第24回学術大会での参加と発表等にて、更新申請が可能となりました。学会への参加をお願いいたします。
- 認定医登録時の所属機関から本学会の非会員機関に異動された先生は、個人会員あるいは機関会員として遡って年会費をお支払い下さいますようお願いいたします。
- ご不明な点、ご質問、お問い合わせは学会事務局までご連絡ください。
*更新手数料納入済領収書（写）を必ず添えて申請願います。

精密触覚機能検査研修協議会主催の精密触覚機能検査研修会について

- 2021年3月6日（第24回大会時）に精密触覚機能検査研修協議会主催の精密触覚機能検査研修会の併催を検討中です。
- 詳細は学会HPに順次掲載いたしますので、ご参照ください。

神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム開催のお知らせ

- 日本口腔顔面痛学会主催、公益社団法人日本口腔外科学会、一般社団法人日本歯科麻酔学会、一般社団法人日本歯科薬物療法学会、口腔顔面神経機能学会共催の神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウムを2021年3月14日（日）10時～17時（予定）、WEB配信にて開催します。（本シンポジウムは、認定医更新単位10単位の対象となりますので、登録証等保存をお願いします）。

口腔顔面神経機能学会主催アドバンスセミナーについて

- アドバンスセミナーを開催します。
第24回大会時にアドバンスセミナーを開催します（10単位）。大会参加が必要ですので、大会参加手続きをお願いします。

口唇・舌感覚異常判定認定医制度規程

〔平成26年3月1日一部改訂〕

第1章 総 則

第1条

本制度は、口唇・舌感覚異常の診断と治療に関わる広い学識と専門的技能を有し、口唇・舌感覚異常を鑑定できる医師、歯科医師を養成することを目的とする。

第2条

この目的を達成するため、口腔顔面神経機能学会（以下、「本学会」という。）は、口唇・舌感覚異常判定認定医（以下、「認定医」という。）を認定し、認定証を交付する。又、口腔顔面神経機能学会口唇・舌感覚異常判定認定施設（以下、「認定施設」という。）の認定を行い、認定証を交付する。

第2章 認定委員会

第3条

認定医制度に必要な事項を審議するために本学会理事長が指名する認定委員会を置く。

第4条

1. 認定委員会は、本学会理事長が指名する委員（以下、「認定委員」という）若干名をもって構成する。
2. 認定委員の任期は3年とし、再任は2期を限度とする。
3. 認定委員に欠員が生じた場合は、補欠委員を本学会理事長が指名する。任期は前任者の残任期間とする。
4. 認定委員会委員長（以下、「認定委員長」という。）は、理事長が指名する。副委員長は委員の中より選出する。

第5条

1. 認定委員会は、年1回以上、認定委員長が招集する。
2. 認定委員会は、委員の2／3の出席をもって成立し、その議事は、認定委員長を除く委員の過半数の賛成で決し、可否同数のときは、認定委員長の決するところによる。

第6条

認定委員会は下記の業務を行う。

- 1) 認定医の資格審査及び更新資格審査
- 2) 認定医試験の合否判定
- 3) 認定施設の資格審査及び更新資格審査

第3章 認定医の申請資格

第7条

認定医を申請する者は、日本国の医師あるいは歯科医師の免許を有する本学会会員で、十分な学会活動を行っているものとする。

第4章 認定医申請資格の特例

第8条

第7条の条件を満たさない場合でも、認定委員会が申請資格を有すると認めた者には申請資格を与えることができる。

第5章 認定施設

第9条

認定施設は本学会が認定した施設とする。

第10条

認定施設は下記の各号全てに該当することを要する。

- 1) 認定施設には認定医がいること。
- 2) 口唇・舌感覚異常判定に必要な設備を有していること。

第6章 認定医及び認定施設の認定

第11条

1. 認定医の認定は、認定委員会において資格審査及び認定試験結果をもとに総合的に判定し、理事会の議を経て決定する。
2. 認定施設の認定は、認定委員会の資格審査をもとに理事会の議を経て決定する。

第7章 認定医及び認定施設の認定証交付

第12条

認定証は、登録料を納入し登録申請書を提出した後、本学会理事長から交付される。その氏名又は施設名は、会報に掲載する。

第8章 認定医及び認定施設の資格更新

第13条

1. 認定医及び認定施設は、5年毎に資格の更新をしなければならない。
2. 更新の可否は、更新申請書をもとに認定委員会において審議し、理事会の議を経て決定する。

第9章 認定医及び 認定施設の資格喪失

第14条

認定医及び認定施設は、下記の各号のいずれかに該当する場合には認定委員会、理事会の議を経てその資格を失う。資格回復については別途定める。

- 1) 認定医及び認定施設の資格の辞退届を本学会理事長宛に届け出たとき。
- 2) 医師、歯科医師の免許取消又は停止処分を受けたとき。
- 3) 本学会会員の身分を失ったとき。
- 4) 認定医及び認定施設の資格の更新を怠ったとき。
- 5) 認定医及び認定施設の名誉を毀損するような行為があったとき。

第10章 認定医及び認定施設の資格回復

第15条

認定医及び認定施設の資格喪失の場合、本学会理事会の議をもって回復することができる。

第11章 補 則

第16条

1. この規程の改正は、本学会理事会の承認を必要とする。
2. 本規程施行時に本学会に入会している施設より若干名ずつを本学会理事会の承認を経て認定医として認定する。
3. 本規定施行日から2年間は暫定期間とし、第1回認定試験は平成21年度第14回口腔顔面神経機能学会総会開催以降に行う。
4. この規程に定めるもののほか、認定医制度規程の実施

に関し必要な事項は、別に細則として定める。

5. 平成26、27、28年度に限り特例として3期目を認めるとする。

付 則

本規程は、平成20年3月1日に制定し、この日をもって施行する。

口唇・舌感覚異常判定認定医制度施行細則

第1条

口唇・舌感覚異常判定認定医制度規程（以下「規程」という。）の施行にあたり、この規程に定められた以外の事項については、以下の施行細則に従うものとする。

第2条

認定施設在籍期間は、複数の認定施設での研修期間を合算したものでもよい。

第3条

認定医制度規程第7条でいう十分な学会活動とは、以下の各号に該当することを要する。

- 1) 認定医申請時に3年以上、本学会会員であること。
- 2) 本学会指定の認定施設に通算して3年以上在籍していること。
- 3) 学術大会において口腔顔面神経機能に関する発表をしていること。

第4条

認定医を申請する者は、審査料（5,000円）を添えて以下の申請書類を認定委員会に提出しなければならない。受理した審査料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

- 1) 申請書
- 2) 日本国医師、歯科医師免許証（写）

第5条

認定施設を申請する施設の責任者は、以下の申請書類を認定委員会に提出しなければならない。

- 1) 申請書
- 2) 認定医名簿

第6条

認定施設は、下記の診査器具を有していること。

- 1) SW 知覚テスター
- 2) 2点弁別
- 3) テーストディスク

第7条

1. 認定試験は、年に一回行う。
2. 認定試験は、書類審査および論述試験により行う。

3. 暫定期間中は細則第3条の条件を満たさない場合でも、認定委員会が申請資格を有すると認めた者には申請資格を与え、論述試験を免除することができる。

第8条

認定医登録料は10,000円とする。

第9条

1. 認定医資格の更新をする者は、本学会所定の認定医更新申請書一式と更新手数料（5,000円）を添えて本学会理事長に届け出なければならない。資格更新の申請は、認定失効期日の6ヶ月前から3ヶ月前までに終了しなければならない。
2. 長期の海外出張及び病気等で更新期間内に更新手続きができない場合には、その理由書を認定委員会に提出すれば認定委員会で審議し、更新期間の延長を認める場合がある。
3. 資格の更新をする者は、認定医資格取得の年から5年毎に、定める単位（30単位以上）を満たさなければならない。

- 1) 本学会参加 10単位
- 2) 本学会発表

講演演者 10単位
共同発表者 5単位

- 3) 本学会以外の学術大会での発表（口腔顔面神経機能に関するもの）

講演演者 5単位
共同発表者 3単位

- 4) 口腔顔面領域の神経機能に関するセミナー、シンポジウムへの参加

本学会が主催、共催等しているもの 10単位

本学会以外の学会等が主催しているもの 5単位

付 則

本規程は、平成20年3月1日に制定し、この日をもって施行する。

特別寄稿

口腔顔面神経機能学会の思い出

医療法人社団 池上総合病院 歯科口腔外科
金子 明寛

2007年の厚生労働省の「医療紛争処理等の現状について」報告¹⁾では2005年の医科歯科合計の医療起訴案件は999件、平均審理期間は26.9月である。2004年の医療起訴案件数は内科280件、外科253件、整形、形成外科152件、産婦人科151件、次いで歯科85件である。以下、精神科43件、眼科および小児科30件、泌尿器科28件、耳鼻咽喉科26件、麻酔科16件と報告されている。歯科医師数は当時92692人であるため、医師1000人当たりの受件数は0.9件と少ない。

本学会の前身である口腔麻痺研究会は大阪大学歯学部口腔外科学第一講座松矢篤三教授らにより感覚異常の客観的評価の更なる推進と共通化、後遺感覚異常発症の可及的抑制と治療法の向上、後遺症に悩む患者への理解、関連する医療技術の発展を求めて1997年に設立された。その当時の医科歯科合計の医療起訴案件は575件、平均審理期間は36.3月であった。口腔領域感覚異常に対する客観的評価基準はまだなく、口腔領域感覚異常診断基準検討委員会による「口腔領域感覚異常診査」のプロトコルが報告されたのは2002年である。私が2004年に本学会を

開催させていただいた第8回口腔顔面神経機能学会では2002年の口唇麻痺の判定方法と評価基準について安田浩一先生、高崎義人先生、高田 訓先生、小林明子先生によるシンポジウムを開催し、2007年に改訂案が出された。シンポジウムではSW知覚テストにおける検査条件・評価方法の留意点（特に測定部位について）も検討され、2018年の精密触覚機能検査の保険収載に繋がったと思える。

口腔麻痺研究会設立の目的であった客観的評価については前進が認められたが、その他は道途上である。患者さんが最も求めている現状回復、再発防止についてはまだ回答を出せていない。本学会の発展がその点に寄与する事を願っている。

○厚生労働省.第一死因究明等検討会2007.4

<4D6963726F736F667420506F776572506F696E74202D2031819
A816988E38E968AD68C5791698FD78E968C8F82CC8C8F90948B7
982D195BD8BCF9052979D8AFA8AD4816A2E707074>+(mhlw.
go.jp)

下顎埋伏智歯抜歯後の下唇知覚異常を考える

関西労災病院 歯科口腔外科
北村 龍二

私儀、2021年3月に定年を迎えました。諸先生方の長年の御指導御鞭撻に感謝いたします。

38年間口腔外科診療に関わってきた経験から、下顎埋伏智歯抜歯後の知覚異常について思うところをを少し述べたいと思います。

私が歯科医師になった1983年頃は下顎埋伏智歯抜歯後の知覚異常の発生率は約1～5%と記憶しています。最近の報告とあまり変わらないようです。

2010年頃までは術前のCT検査などは無く、パノラマX線写真のみで抜歯していました。また1990年代前半まではほぼ全例で下顎孔伝達麻酔が行われていました。現在は術前にCT検査を行い下歯槽神経束との位置関係を精査し、下顎孔伝達麻酔実施は非常に少なくなっています。にもかかわらず知覚異常発生率が40年近く前と変わっていません。なぜでしょう。私自身の

知覚異常発生率は、大まかではありますが1/1000人(0.1%)程度です。

埋伏智歯抜歯後知覚異常は合併症として避けられない場合がありますが、若手の先生方は術式がマニュアル化され、指導を受けた方法が全て、と思っていませんか。個々のケースで違いはありますが、基本的には骨削除・歯冠分割・歯根分離・歯根膜腔形成などの操作を重ね、慌てず視野を確保しつつ抜歯する。それで知覚異常のリスクは軽減します。手術時間は手間をかけても+5分程度です。習った術式が本当にベストな術式なのか、他にもっと良い方法は無いのか。指導を受けた術式に疑問を持って諸先輩方の手術法を見てください。そうすればきっと自分に合った、より良い抜歯法が考えつくと思います。下唇知覚異常は抜歯後合併症として避けられないものと思わず、より安全な自分流の抜歯法を確立していただきたいと思います。

めざそう口唇感覚の完全回復

大阪大学大学院教授（口腔外科学第一教室）

古郷 幹彦

医療安全の制度は20年前の臓器取り違い事件より非常に速いスピードで発達し現在に至っています。医科と歯科を分けることにも問題があるかもしれませんが、本学会の基本テーマとも言える口唇麻痺については歯科特有のトラブルであります。歯科会が自分自身で解決しないといけない。一つは障害をおこす原因を減らすこと。もう一つは障害された感覚を完全に回復させること。本学会の成立理由の一つはこの医療事故による口唇の麻痺への対応という考えがありました。医療事故機会の減少ということでは医療安全対策が有効でしょう。また障害の評価というとは本学会の活動もあって口唇麻痺の検査が保険点数化されました。障害の定量的評価という点では公的に認められたということでしょう。しかしながら根本的な治療法はまだ見出せていません。SGBあるいは神経縫合をもちいても神経障害が

なかったことにはならないのです。神経障害以前の状態に戻らなければ解決したことにはならない。顎顔面の手術技術は技術革新や再生医療の応用により高度に発達し始めました。しかし神経障害に対する修復は人工神経を使えるようになった時代でも完全修復はできない。患者は感覚の一部回復で我慢させられているのです。納得できる有効な治療法が見つかったとは私は思いません。これは本学会の使命であります。私はこの3月で大阪大学を退任します。答えを見いだせなかったことは申し訳なく思います。先生方、納得のいく結果を見いだせる治療法を開発していただくことをお願い申し上げます。本学会ができなければ誰もできないし、本学会員以外誰もしないと私は思っていますとは少し過激でしょうか。頑張ってください。まだ遠いとは思いますが期待しています。

退官にあたって：「お世話になりました。」

新潟大学大学院

医歯学総合研究科顎顔面口腔外科学分野

高木 律男

ご無沙汰しております。昨年のコロナ騒動とここ数年行っている別の仕事の学会が同じ時期に開催されることもあり、十分に本学会に参加できずご迷惑をおかけしました。

今年の3月末にて定年退職することからでしょうか、会誌への寄稿依頼がありました。上記の通りであり貢献しているとは言えないので、お恥ずかしいところですが、ご挨拶を兼ねて本学会の思い出について振り返ってみたいと思います。

当初、先代の大橋靖教授が、教室として学会に入会する形の本学会に入るということで話がありました。早い時期から学会に参加させていただき、会報にもあります通り認定施設も個人としての認定医も13番目の登録番号となっています。

平成23（2011）年3月5日（土）には、第15回口腔顔面神経機能学会を主催（準備委員長：飯田明彦）させていただきました。シンポジウムとして「第三大臼歯抜歯に伴う神経損傷トラブルへの対応」を予防、画像、治療の面から検討しました。今も研究の中心として継続して検討しています。

また、平成26（2014）年から1期の理事長を経験させていただきました。前理事長であった大阪大学の古郷先生がお忙しいということもあり、理事長をお引き受けいただきましたが、事務局はそのままでお願いしましたので、田中 晋先生には大変ご迷惑をおかけしたと、心より感謝しております。当時は会員数の増加、口唇・舌感覚異常判定認定医の増加を目標としましたが、在任中には達成できませんでした。しかし、精密触覚機能検査が口腔・顎・顔面領域の知覚に関する検査が新設されるなど、その重要性や必要性は増加していると感じます。さらに、昨年来のCOVID-19では、口腔に関連する味覚障害、嗅覚障害も重要な症状としてあげられ、その機序や頻度等、今後も研究対象として押さえておくべき感覚があります。今後ますます口腔顔面神経機能学会が発展するとともに、会員各位のご活躍を祈念してご挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。

オンラインに思うこと

北海道大学大学院
歯学研究科口腔病態学講座口腔顎顔面外科学教室
鄭 漢忠

2019年に武漢で発生した新型コロナウイルスはあっという間に全世界に広がった。2020年、日本ではさっぽろ雪まつりをきっかけにまず北海道で広がり、その後日本中に広がった。その影響は医療、教育、観光、飲食店、一般の人々の暮らしなど様々な範囲に及んだ。

大学では卒業式、謝恩会が中止になり、定年になった教授は静かに大学を去っていった。4月からは授業がオンラインになり、そんなことは想像もしていなかった教授たちを慌てさせた。大学病院での医歯薬、看護の学生たちの臨床実習は中止になった。病院では緊急手術を除いて、多くの手術が中止になった。日本口腔外科学会が行った調査では、緊急事態宣言後には研修施設のおよそ6割が1/4以下の手術件数にとどまっていた。

会議もすべてオンラインとなった。ほぼ毎日あった大学の会議の多くはメール会議もしくはオンラインでの会議となった。日本口腔外科学会の会議もそのほとんどがオンラインになっ

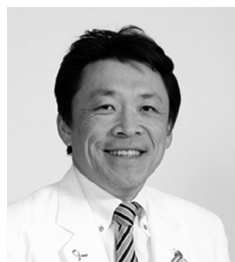
た。その影響で東京や各地への出張はなくなり、身体はずいぶん楽になった。多くの会議がオンラインで開催されるようになったことで学会の業務が大きく滞ったという話は今のところ聞こえてこない。これまでいったい何のためにせせと出張していたのだろう。

対面での対話とオンラインでの対話とではヒトの脳から放出される神経伝達物質の量が大きく異なるという記事を読んだ。所詮、ヒトはオンラインでの対話だけでは元気になったり、大きく勇気づけられることはないらしい。少なくともパソコンの周辺機器が現状のままではという条件付きの話らしいが。スイッチを入れると友人がそのままの姿でさもその場にいるように映し出されれば別ということか。

オンライン授業、オンライン会議で間違いなく時間には余裕ができた。ただ、なんとなく物足りないという感じは否めない。やはりヒトは対面でしかお互いの存在を確認できないものらしい。

第24回口腔顔面神経機能学会

第24回口腔顔面神経機能学会学術大会にあたって



第24回口腔顔面神経機能学会学術大会 大会長
奥羽大学歯学部口腔外科学講座 教授

高 田 訓

流行語大賞に「延期」や「中止」も入れて頂きたいところです。

2020年2月の学術大会の延期を決定したのは、「3密」という言葉が生まれる前の1月末でした。1年越しで開催する2021年3月の第24回学術大会は、もちろん流行語大賞のトップテンにある「オンライン開催」を予定しております。

口唇麻痺研究会の会報VOL 1には、本学会発足のきっかけが書かれています。そこには、口唇部感覚異常を診断して神経障害の対応と予後判断ができるようになること、感覚異常を客観的に評価して医療紛争の場では中立的、客観的、定量的に意見できるようになることとあります。1997年の発足当時、本学会のターゲットの多くが下歯槽神経でした。それは23年経ても変わりませんが、社会背景や時代の流れとともに学会が携わる領域は広がってきました。口唇麻痺研究会は口腔顔面神経機能学会となり、客観的診断のために作成したのは、口唇と舌の感覚異常を評価するプロトコルです。インプラント治療に関わる訴訟が増え、有害事象が複雑化し、賠償金額も高くなりました。学術大会が開催される度に、本学会発足時の目的は少しずつ達成されて新しい課題が生まれます。私たちは、神経損傷や障害、事故や事象、知覚や運動機能回復に対して、正しい判断と診断ができるようになり、中立的立場で意見できるようになり、より良い治療ができるようになったのでしょうか。第24回の学術大会でも、また少し目的が達成され、また新たな課題が生まれると思います。

NHKの朝ドラ「エール」は福島県出身の古閑裕而が題材でしたが、実は奥羽大学の校歌も彼の作曲です。ちなみに朝ドラの主題歌「星影のエール」は、あのGreeenが作曲した曲で今年の紅白でもその歌声を聞けました。コロナが終息した際には、自然豊かな福島県と音楽であふれる楽都、郡山市に是非お越しください。

今回の学術大会は、特別講演とスキルアップセミナーをLIVE配信し、一般講演はオンデマンドで2週間配信する予定です。皆様にお越し頂けないのは残念ですが、一般講演への多くの参加をお待ちしております。

第24回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会のご案内

第24回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会
大会長 高田 訓

第24回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会を下記要領にて開催いたします。

記

開催期間：視聴期間 令和3年3月6日（土）～3月19日（金）

会 場：WEB開催（一部live予定）

参 加 費：2,000円

参加登録方法：下記E-mailへお申し込み下さい。

s-miyota@den.ohu-u.ac.jp

参加費支払い方法のご案内をお送り致します。

（クレジットカード支払いのみとなりますが、銀行振り込みを希望される方は個別にご相談下さい。）

参加費支払い確認後に学術大会ホームページアドレス等を送付致します。

受付期間 2月5日（金）～3月5日（金）

役員理事会・総会：令和3年3月6日（土） Zoom開催予定

特別講演：「顎顔面領域の慢性痛に対するアプローチ

奥羽大学歯学部 口腔外科学講座歯科麻酔学分野 山崎信也 教授

アドバンスセミナー：会津中央病院歯科口腔医療センター 濱田智弘 先生

併 催：精密触覚機能検査研修会（予 定）

演題募集要項：

1. 発表形式：口演形式、口演時間6分にてお願い致します。

音声付きスライド（Power Pointに音声を録音し、mp4（動画ファイル）に変換いただいたもの）を下記事務局メールアドレスに令和3年2月19日（金）までにご送信ください。

2. 演題申込方法：演題名・所属・発表者（演者に○）、抄録（300文字以内）、連絡先（住所、電話番号、FAX、E-mailアドレス）を記載したMS Wordファイル（.docx）を添付し、下記事務局メールアドレスにご送信ください。

3. 演題・抄録申込締切：令和3年2月5日（金）

4. 事後抄録：演題名・所属・発表者（演者に○）を記入の上、1,200～1,500字程度の事後抄録を3月6日までE-mailにてご送信ください。本文以外に4、5枚程度の写真・図表を加えて頂いて結構です（カラー不可）。なお、ファイルサイズは5MB以下としてください。

演題申込・問い合わせ先

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31-1
奥羽大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野
第24回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会
準備委員長 御代田 駿
Tel&Fax：024-932-9356
E-mail：s-miyota@den.ohu-u.ac.jp

口腔顔面神経機能学会 令和元年度収支決算報告

(平成31年2月1日～令和元年1月31日) (単位: 円)

〈収入の部〉

前年度繰越金	995,118
会費	775,000
認定医審査料 (更新を含む)	60,000
認定医登録料	130,000
広告費	300,000
利息	6
その他	
合計	2,260,124

〈支出の部〉

第24回大会開催補助金	150,000
会報発刊 Vol 23	249,150
日本歯科系学会協議会年会費	100,000
管理費 (その他 雑費)	103,396
認定審査	220,000
認定証発行	30,088
通信運搬費	38,940
ホームページ接続・更新料 (謝金含む)	17,280
会議	167,004
謝金	20,000
旅費	60,000
名誉会員推戴章作製費	48,798
第3回スキルアップセミナー開催経費	40,000
次年度繰越金	1,015,468

合計 2,260,124
(2020年11月17日 理事会にて承認済)

口腔顔面神経機能学会会則

〔平成28年3月6日一部改訂〕

第1章 総 則

第1条 本会は、これを口腔顔面神経機能学会とよぶ。

第2章 目的及び事業

第2条 本会は、口腔顔面領域の神経機能障害の病態解明や治療法開発の研究、討議を通じて国民の健康と福祉に貢献することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 総会および学術大会の開催
2. 会誌の発行
3. その他本会の目的達成のために必要な事業

第3章 会 員

第4条 本会の会員は、本会の目的に賛同する者をもって構成する。

会員は正会員・賛助会員および名誉会員よりなる。名誉会員は本会に対して特別に功労のあった者で理事会が推薦し、総会で承認された者。

第5条 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会事務局に申し込むものとする。年会費は機関 (大学講座・研究機関・病院・都道府県あるいは郡市歯科医師会など) ごととする。個人の年会費は別に規定する。

第6条 本会会員で、本会の体面を毀損するような行為があった場合、理事会の議を経て総会の承認により除名することがある。

第7条 2カ年以上会費を納めないものは、退会者と見做すことがある。

第4章 役 員

第8条 本会に、次の役員を置く。

1. 会 長 1 名
2. 理事長 1 名
3. 理 事 20名以上30名以内
4. 監 事 2 名

第5章 幹 事

第9条 理事会の会務を補助するため、若干名の幹事を置く。幹事は理事長が指名し、理事会の承認を得る。

第10条 役員会の組織と職務は次による。

1. 会長は当該年次の総会ならびに学会を主宰する。
2. 理事長は本会を代表し、会務を掌理する。副理事長は理事長を補佐する。
3. 理事は理事会を組織し、会務を執行する。
4. 監事は会務および会計を監査する。

第11条 役員の選出等は次による。

1. 会長は理事会により推薦され、理事会の議を経て、総会の承認を受ける。
2. 理事長と副理事長は理事会により理事の中から選出される。
3. 理事は理事会により正会員の中から選出され、総会の承認を受ける。
4. 監事は理事会により理事の中から選出され、総会の承認を受ける。
5. 役員選出に関する規程は別に定める。

第12条 役員の任期は次による。

1. 会長の任期は1年とする。
2. 理事長と副理事長の任期は3年とする。また原則として再任は2期までとする。
3. 会長および理事長を除く役員の任期は3年とし、再

任を妨げない。

4. 役員の任期は総会の翌日から3年後の総会当日までとする。また、補充によって就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、次期役員が決定されない場合は、次期役員決定までとする。

第6章 会 議

第13条 理事会は毎年1回以上理事長がこれを招集する。

1. 理事会は、理事現員数の3分の2以上（委任状を含む）が出席しなければ、その議事を開き、議決することはできない。ただし、理事が推薦する正会員を代理として認めることができる。
2. 理事長が指名した各種委員会の委員長および監事・幹事の出席を認めることができる。

第14条 通常総会は毎年1回、会長が招集する。

第15条 次に掲げる事項については通常総会の承認を受けなければならない。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他必要と認められた事項

第16条 必要あるときは臨時総会を開くことができる。

第7章 会 計

第17条 本会の経費は会費、寄付金およびその他の収入をもってこれにあてる。

第18条 会費は正会員においては機関年会費35,000円、個人年会費5,000円とする。賛助会員は年額一口30,000円とする。

第19条 本会の会計年度は毎年2月1日に始まり、翌年1月31

日に終わる。

第8章 委 員 会

第20条 本学会の会務運営に必要な委員会を置くことができる。

1. 口唇麻痺判定認定制度設立準備委員会
2. 口腔領域感覚異常診断基準検討委員会
3. 学会のあり方委員会
4. 学術委員会

第9章 会則の変更

第21条 会則の変更は、理事会の議を経て総会の議決により行う。

第10章 付 則

1. 本会は事務局を置き、その所在地は理事長改選時に定める。
2. 本会則は平成16年3月6日より施行する。

—役員選出に関する細則—

第1条 理事は次の項目に該当する者で理事会が適当と認めた者とする。

1. 本会の目的に賛同する機関の代表者、
 - 1-1 大学病院教授あるいは教室主任に相当する者
 - 1-2 都道府県あるいは郡市歯科医師会代表者
 - 1-3 病院歯科、口腔外科の主任あるいはそれに相当する者
2. 本会の運営に必要な個人

第2条 理事会の指名により、顧問を若干名置くことが出来る。

入会申込と年会費のお知らせ

本学会はその発会の目的に照らし、大学の研究機関に拘らず、広く会員を集うことが確認されています。開業されている先生方にも是非入会していただきたく存じます。なお、入会金は無料とし、会員の負担をできるだけ少なくするため、年会費が各機関ごととし、当分の間下記の如くいたします。各機関での入会人数に制限はございません。会費納入時にお名前をまとめて事務局までご連絡ください。

年会費は以下の通りです。

機関会員年会費 35,000円

個人会員年会費 5,000円

入会申込先

口腔顔面神経機能学会事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野

TEL: 099-275-6242 FAX: 099-275-6248

Email: jsolfn2@gmail.com

学会振り込み口座（入会金、年会費、更新料等の振り込み先）

<振り込み口座等> 【ゆうちょ銀行以外からの振込みの場合】

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：七八八（読み ナナハチハチ、店番788）

預金種目：普通預金

口座番号：3225249

口座名義：口腔顔面神経機能学会

【ゆうちょ銀行から振り込み用紙、口座振替等にて振り込む場合】

記号：17880

番号：32252491

口座名義：口腔顔面神経機能学会

理事名簿

理事長 中 村 典 史	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座 口腔顎顔面外科学分野
副理事長 高 田 訓 二	奥羽大学歯学部口腔外科学講座
飯 田 征 二 (監事)	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学分野
石 濱 孝 二	大阪警察病院 歯科口腔外科
今 村 佳 樹	日本大学歯学部口腔診断学教室
金 子 明 寛 (監事)	医療法人社団 池上総合病院 歯科口腔外科
川 辺 良 一	大船中央病院 歯科口腔外科
岸 本 裕 充	兵庫医科大学歯科口腔外科学講座
古 郷 幹 彦	大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室
小 林 明 子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系 顎顔面機能修復学講座顎顔面外科学
椎 葉 俊 司	九州歯科大学学生体機能科学専攻生体機能制御学講座歯科侵襲制御学分野
澁 谷 徹	松本歯科大学歯科麻酔学講座
高 木 律 男	新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻口腔健康科学講座 顎顔面口腔外科学分野
高 崎 義 人	社会医療法人 大道会 森之宮病院 歯科診療部
鄭 漢 忠	北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔顎顔面外科学教室
中 島 正 博	大阪歯科大学口腔外科学第Ⅱ講座
堀 之 内 康 文	公立学校共済組合 九州中央病院歯科口腔外科
山 城 三 喜 子	日本歯科大学生命歯学部歯科麻酔学講座
依 田 哲 也	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系 顎顔面機能修復学講座顎顔面外科学
河 村 達 也 (代表委員)	大阪府歯科医師会
若 野 正 人 (代表委員)	大阪府歯科医師会
北 村 龍 二	兵庫県病院歯科医会
事務局監事 野 添 悦 郎 (幹事)	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座 口腔顎顔面外科学分野

(～2021年3月)

編集後記

2020年2月末、その日大阪への出張にて新幹線に乗り込む直前、高田大会長からの突然の電話、第24回大会を延期する旨…。頭に浮かんだのは、出張出発前に郡山宛て送ったばかりの大会用の荷物。すぐに事務局に頼んで送付を待ってもらうようお願いしましたが、すでに発送したとのこと。数日後、荷物だけ鹿児島―郡山往復の旅を終えて還ってきました。そこから、新型コロナウイルスの影響により、種々学会の延期、Web開催が始まりました。いまだにその影響は治まらず、延期となっていた第24回大会はWeb開催となりました。Web学会に慣れてきたとは言え、会員の皆様の顔の見えない学会開催には不安はつきません。

新しい大会に臨まれる大会長高田先生、準備委員長御代田先生にはご面倒をおかけします。ただ、発想を変えると、Web開催では自宅からでも参加できるという利点もあります。特に認定医の先生方には学会参加による単位取得がしやすくなることになります。ふるって学会参加をお願いします。

最後になりましたが、学会事務局を引き受けて約4年となり、ようやくその任を終えることができそうです。会員の皆様のご協力とご理解に感謝申し上げます。この場を借りまして御礼申し上げます。ありがとうございました。(事務局幹事：野添悦郎)